

第4回門真市立リサイクルプラザ運営検討委員会

議事録

日時：平成22年4月27日（水）午前10時から午前12時

場所：門真市立リサイクルプラザ5階 第一会議室

出席委員：

学識経験者	福岡大学大学院客員教授 工学研究科 工学博士 浦邊真郎 摂南大学学長付客員教授、大阪工業大学客員教授 農学博士 宮田秀明 大阪工業大学准教授 環境工学科 博 士 福岡雅子
市職員	稲毛総合政策部長、市原市民生活部長、政環境事業部長
市民の代表	畑智恵子、小寺美保子

事務局：田中環境事業部総務次長、柴田環境センター総括参事、船越環境総務課長
橋川環境総務課長補佐、笠置環境総務課長補佐、
環境総務課総務・減量グループ 水野

次 第

- 1・第3回委員会議録の確認について
- 1・門真市リサイクルプラザの今後の運営について
- 1・第3回議事録の要約一覧
- 1・工房の評価表

司会	定刻となりましたので、只今から第4回門真市立リサイクルプラザ運営検討委員会を開催させていただきます。本日は、委員の皆様におかれましては、公私何かとご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございます。 私、本日の司会を務めさせていただきます、環境総務課の笠置でございます。よろしくお願いいたします。 本日の委員出席は、8名でありますので、設置要綱第6条第2項の規定に達しておりますことをご報告いたします。なお、議事録作成のため、録音させていただいておりますのでご了承ください。 ここで、3月31日をもって定年退職されました北口委員、柏木委員、千住委員の後任として就任されました委員の紹介をさせていただきます。 まず、門真市総合政策部長の稲毛委員でございます。
委員	稲毛でございます。どうかよろしくお願いいたします。
司会	次に、門真市市民生活部長の市原委員でございます。
委員	市原でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。
司会	次に、門真市環境事業部長の政委員でございます。
委員	政でございます。よろしくお願いいたします。一言ご挨拶させていただきます。 各委員におかれましては、本市の環境行政につきましては、何かとご尽力をいただきまして、ありがとうございます。又、前任の千住部長には力及びませんが、力ある限り頑張ります。ご指導とご鞭撻いただきますようによろしくお願いします。
司会	なお、北口、柏木、千住の3方につきましては、事務局に残っていただいております。本日は、公務の為、柏木、北口は出席しておりません。また、4月1日より、門真市事務分掌条例施行規則の一部の改正する規則が施行され、それに伴いまして、本委員会の庶務は、環境総務課が行う事となりましたのでご了承ください。 改めまして、事務局を紹介いたします。 環境事業部次長兼環境センター長の田中でございます。 環境センター総括参事の柴田でございます。 環境事業部環境総務課長の船越でございます。 環境総務課課長補佐の橋川でございます。 環境総務課主査の千住でございます。 環境総務課の水野でございます。 私は環境総務課課長補佐の笠置でございます。 それでは、開会に先立ちまして、委員長よりご挨拶を申し上げます。
委員長	新年度を迎えまして、3名の委員が代られましてこの委員会の方は完結が出来ればと思いましたが、もう一回をやらないといけないかもしれません。結論の方向性が大体見えてきましたので、今日うまくいけばまとまるかもしれません、もう一回お願いするかもしれませんので、よろしくお願いいたしますと思います。
司会	ありがとうございました。 ここで、お手元に配布させていただいております資料のご確認をお願いしたいと存じます。 資料は、会議次第、第3回議事録、第3回検討委員会（まとめ）、マトリックス資料

	でございます。揃っておりますでしょうか。それでは、委員長よろしく願います。
委員長	次第の一番目の副委員長の選出についてのことでございます。空席になっております副委員長の選任をお願いしたいのですが、事務局より説明してください。
事務局	設置要綱第5条第2項に委員長及び副委員長は、委員の互選により定めると規定いたしておりますのでよろしくお願いいたします。
委員長	説明は終わりました。何かご質問・ご意見ございますか。
委員	前任の総合政策部長の北口さんの後任の稲毛部長をお願いしたいと思います。
委員長	稲毛委員とのことですが異議ありませんか。
	異議なしの声
委員長	副委員長は、稲毛委員をお願いします。 次に、第3回検討委員会議事録の確認について事務局より説明してください。
事務局	前回同様に配布させていただいています議事録ですがページ数も多いので、本日、目を通していただいて訂正がありましたらお願いしたいと思います。又、メールで送らせていただきますので、今週中に確認いただきましたら、結構と思いますのでよろしくお願いします。
委員長	今まで通り確認をして、訂正していただいてメールで返信してください。 続きまして、次第の3番目の門真市立リサイクルプラザの今後の運営について、まず、第3回検討委員会のまとめを事務局より説明してください。
事務局	前回のまとめとしまして、議事録の要約を「提案と課題」「アンケート」「マトリックス評価」「指定管理者制度」大概の4つの視点としてまとまったかと思います。まず、「提案と課題」から順次読み上げていきます。 (第3回議事録要約の読み上げ)
委員長	最後の方までまとめていただきました。11工房について評価を行うことと、また、提案していただいて、課題も色々出てきました。まとまっているとは言えませんが、今の説明や3枚の資料について、何か注意すること、質問等ありますか。
委員	非常に残念な資料になっています。文章が切れていたりしていますので、資料としては、不備なものになっています。
事務局	議事録の作成に手間取り、事務局として見直す時間がなく、そのまま出してしましまして、申し訳ございません。
委員長	全体的な雰囲気は、まとまる方向には行っていないと振り返って思いました。
委員	これを一枚作るのに労力が掛っていると思いますが、前回もこう言った感じでまとめられていましたが、今後の事もありますので、議事録の言葉ではなく、ある程度

	アレンジして、重要なポイントをよく分かる様に、印字ができた形で出してほしいと思います。今後どう進めるのか不安になる資料だなあとと思います。この委員会が終わりまして、これから実際にリサイクルプラザを運営していく皆様なので資料のまとめ方も、こんな方向でやって行きたいとの発想があって、それをうまくまとまって確認して行なっていく、こうした作業の流れができていない様に思います。リサイクルプラザの運営も同じ様に行われるのであれば凄く残念な結果になるかと感じました。その辺を頑張っ行っていただきたいと思います。
委員長	公開資料だと、我々は前回もいましたから大体のニュアンスが分かりますが、初めて来られた委員の方は、どうなるのか気になると思います。次の資料A3の2枚で基本的に11工房についての色々な意見が出てきました。評価するのにマトリックス表で、評価してみましょうとのことでした。次のマトリックス資料ですが、今までのまとめに合ったかどうか別として、マトリックスでまとめていただいたので、今日の議論のスタートになろうかと思います。マトリックス資料でよく説明していただいて、議論したいと思います。評価科目が足りないかという事とか、中身も前回の意見の評価が反映されていないとか、そういったことで、議論を進めていこうと思いますので、マトリックス資料の中身について議論を進めていけばと思います。資料の説明してください。
事務局	このマトリックス資料につきましては、先ほど、ご説明していただきました様に、前回までの各工房についての委員会のご意見と事務局としての考え方により11工房についての評価項目としています。ごみ減量に直結しているのか？3R啓発になっていくのか？又、市民参加として新規の方に来ていただけるような工房なのか？環境学習に供する工房としてはどうなのか？それから、今回改定しました一般廃棄物処理基本計画の中で、低炭素社会を推し進めると言うことで、低炭素を考えた場合に各工房はどうなのか？再廃棄についてはどうなのか？家庭でこの工房で体験されたことが実践できるのか？と言う様な各科目につきまして、11工房の評価というか、説明としてさせていただきます。 2枚目につきましては、イベント・環境学習・施設見学・作品展示・講演会・リサイクル販売、工房についての例題を揚げまして、説明させていただきます。2枚目のA3の内容ですが、この委員会で、ご検討していただいて各工房についての評価をすると言う様なことでございましたので、資料の表だけを作らせていただいています。以上でございます。
委員長	評価が今日できたら一番良いですが、最後の評価とA3の2枚目を議論する前に、採点等の色々なことを考えないといけないので、一枚目のマトリックス表で、評価の項目が直結しているかどうかということはないのか。こう言う評価項目でよろしいかなどについてご意見をお願いします。
委員	環境教育という評価項目はどうでしょうね。
委員	教育と言うのは上からと言う様な感じですね。学習とは自ら学ぶと言う違いがあります。学習の方が自ら学べるとのことで良いと思います。
委員	ごみ減量化、低炭素、環境教育と大きく分かれています。その中に学習とかそれをどこに入れるのか。目的とするごみ減量化の環境教育、実際に低炭素に繋がり、環境学習と言うのはその中の一つの小さな部分。こう言う工房の部分につきましては、3本柱の指標を持て来て考えるか、またはこうした項目で考えるかですね。

委員長	・・委員が先ほど言われたようなマトリックスとか、カード式じゃなく、とかの考え方がありますね。
委員	いいえ。先ほど言ったのは「まとめ」の方です。まとめの順序よくして欲しい。まあ確かにその表でウエイトを付けるかです。
委員長	最後までうまくいくかどうかはわかりませんが、工房の評価というところがありますよね。これはどう言う様な点を付けて、総合点まで書いてある。どうするのか。すべて横並びで、先ほど・・委員が３本柱で区切って行なうのか？そういうことを考えて、評価項目がいいのか３本柱がいいのか。中身については後で議論します。ごみ減量と３Ｒを事務局の方でまとめる時は非常に難しかったかなと思います。この中身を読んで行くとごみ減量と３Ｒ啓発はあまり変わらないか、最後の家庭での実行と言うのは広がりですね。工房でされている事は家まで持って帰るのか。まあ、学校までこの辺は教育と言えば教育ですね。
委員	教育で言う意味では要するに３Ｒ啓発が教育です。ここの工房を主催する人が、教えると言うか、啓発等の知らせる事ができるかです。それが環境教育に繋がる。学習で言うのは受ける側は外でできるかどうかの感じだと思います。
委員長	家庭の実行として、色々な考えがあるかと思いますが。
委員	家庭での実行については、私は思いつかなかったです。良い案と思います。
委員長	私も良い案と思います。いかに広がっていくかというのか、それがいいですね。それがここまでまとめてもらって非常に苦勞されたと思います。相当皆に当てはまっていると言うか、それなりに評価項目としては、これを変える議論するのは非常に複雑で、このままにするのか？もう少しまとめるかです。
副委員長	今日、初めて参加して読ませていただきましたが、今一つ全体の動きが見えていない状況です。今回は総合計画のまちづくりの事も考えていますので、今回も年度当初から第５次の総合計画と言うことで、環境に配慮したまちづくりとか、低炭素のまちづくりとか、普段から当然大きな柱を掲げているのですが、マトリックスの評価での市民参加とありますが、公民協働で市民参加がどの様に進むのか、そうした観点とか、あるいは、まちづくりの観点とか、これらが家庭実行には繋がるかと思っています。もう少し幅広く、門真全体のまちづくりのアイデンティティーのように、繋がるようなこともここの事業を見たら、難しいかも分かりませんが、まちの全体としてそれがまちづくりの何かに貢献できるような、例えば、ガラス工房で何か行ないました、それが門真のまちに何かに活用されているとかね、例えば北島の川のまちづくりとか色々で行なっています様にね、市民参加に結びつくような活動があればそれはそれで、意味合いがある、こんなことをやって、それをやったら還元ができると、言う様なことがあれば非常に効果があるかと考えたりもします。石けんなら石けんで、例えば市民に色々な形で還元できる様な活動になっているのか、非常に大事な観点かという気がして、家庭からでも市民参加に入っているかと思っています。意識してできるような評価をしていけばいいではないかという気がしています。
委員長	その辺が２枚目の所、今やっているのは１１工房のマトリックス資料で、この１１工房について、どういう様な感じで事業仕分けをしょうか。２枚目については、ま

	ちづくりも含めて少し広げてやって行こうかと、それで複雑なのは、我々、最初委員会をやる時に市長との意見交換で市長の思いも色々聞かさせてもらい、単純に言いますとまちづくりについては、ここだけじゃなくて小学校とか色々な所とか、水辺での散歩もあるので、その辺も考えの意向が有ったのですが、あまりにも広がり過ぎて、我々の見解では難しいので、まずリサイクル工房をどういう形にやって行くのか、今後の広がりとしてはまち全体にどういう形とするのか、2枚目は少しリサイクル工房を中心になっていますが、全体はもう少し広がった状態で上手くいけば少し方向性が見えるではないかと思います。まちづくりをまったく無視している訳じゃないので、まずはこの11工房については、できれば運営からまちづくりに繋げると一番いいですが、今まで我々は、市民がご存じないとか、趣味に走ってわずかの利用しかないとか、これを根本的に全市民などに広めるのはなかなか難しい話もあって、11工房に視点を置いて、今後の展開については、2枚目に内容検討がありますので、11工房についてのまちづくりの視点を考えるのは、高評価であれば、その辺に続けていくための検討をしていきたいと思います。
委員	今の話こそ優先順位と言うか、3本柱を立てるのであれば、まずはごみ減量とこの施設が何のためにあるかと言うところを押さえて、そのあとの話かと思うので、例えば、まちづくりとか活性化に繋がるなら、備考欄の所に記載があれば、詳細についてはもう一列を増やすと言うのはどうかなあと思います。まず、ここの施設は何のためにあるのか、ごみ減量とか3R啓発とか、ちゃんと書かれているかではないかと思います
委員長	色々なご意見をいただいて、評価の項目を見て、補足の必要があるかどうか。
委員	前回の内容ですけども、趣味なら公民館でもそういう物を含めてもここでなくてもいいと思います。
委員	ほかでできますね。
委員	ここだけでできる事を考えてればいいかなあと思います。
委員長	だから11工房については、ほかでできる評価、全部残るか全部残らないか、分かりませんが。
委員	公民館の春のサークル生募集、そういうのを見ながら他の所がおこなっていれば、そこで。エコパークを使ってごみ減量を最初の目的で考えていかなないとなかなか進む方向が考えにくいので、視点的にはそう考えて来たのです。
委員長	先ほどの意見でまちづくり等に備考欄に記入して、参考意見があれば、それも記入していただきたい。そしてこの1枚目の11工房については、どうしますか？もう少しまとめるか、それかこのままでいきますか。
委員	ここでしかできないものと考えたら、すごく絞られます。だから、ここでしかできない物なら、ガラスは設備的にはここでしかできません。紙すき、石けん、染め、陶芸、裂き織、リフォーム、エコクッキングはどこでもできます。自転車の再生、家具の再生はここでしかできないのです。3つしかできないです。
委員	それにプラスごみ減量とか、他の啓発とかを考える。

委員	ここでしかできないのは3つで、あとは趣味的な物はここで学んで、なんだかの形でごみ減量に関わっているのです。
委員	確かにここでしかできないもの言うのはあります。ここでしかできないものでも、環境教育的にあまりには役に立たないと言うようだったら、止めた方がいいと思います。それで、家庭で実行と書いてありますが、実際にここでしたことが、家庭では難しいもの、それがごみの減量化には繋がるかどうかなかなか難しい所があると思います。本当の意味では、石けんはどこでもできるが、廃棄物の利用をするという様なことだったらるかに大きな共通効果があるとは思いますが。このような視点において、ここでしかできないものと実際に今までやってきた内容があまりにも違う様なことになっているかも知れないです。先ほどの話の中にごみ減量と環境教育、低炭素のことは少し分かりませんが、ごみ減量と環境教育は、リサイクルプラザの設置目的としてごみ減量がありますので、これら二つを目的として運用した方がいいのではないかと思います。もう一方で、門真市の施設の中で類似している活動があるならば、他の施設でとの評価をすべきであり、実際にはその評価はないですか。
委員	公の文化会館とか、公民館とかそれから市民プラザでされているのは、紙すき、それに陶芸も他の施設でできます。またリフォーム・エコクッキングもあります。各公で行われていないのは裂き織とか、石けんも行なっていないです。出前としてはありますが講座としてはしていないです。
事務局	学校で出前講座はしていますね。
委員	公の施設では、ここでしかしていないです。
委員長	紙すき、陶芸は他でもされているのですね。
委員	紙すき、陶芸、リフォーム、エコクッキングは他の公施設でも設備が有りますので、他でもできます。
委員	石けんの件ですが、市民生活部で所管していますが、消費生活研究会で食廃油の回収事業を行なっています。そこまでです。
委員	石けん作りは行なっていないが、消費生活研究会は食廃油の回収を行なっているのですね。
委員	ある意味でそういう様な連携ですかね、できれば研究会の事業も次の事業に広がりますね。公民協働で言うような視点が必要ですね。この事業を残すならそういう展開もありかなと思います。
委員	消費生活研究会は回収されてそれはもう不用品とされて処理されているのですかね。社会的なリサイクル活動として、よほど有効な活動されないと使うか使わない様な分からない石けんを作って家でごみになるよりは、廃油は今凄く貴重なものですよね。
委員	回収された廃油で石けんを作っている業者です。大阪市内の業者です。

委員	それはちゃんとした石けんを作られる、多分工房で作られた石けんのレベルとは違うので同じ廃油で回収していたら、やっぱりプロフェッショナルに廃油で使われるの方が本当はいいと思うのですよ。
委員長、	具体的な話になりますが、ここの項目を一つずつ見ていたらどうですか。ごみ減量から家庭の実行まで、これはおかしいと言う様なところが有れば、また、内容修正をしていきましょう。まず、個別を見ていきますか？ガラス・自転車・家具はここでしかできないと言われている三つを見ていただきますか。
委員	ちょっとその前に、この資料は誰の言葉で作られているのですか。それぞれの工房の方にこう言うのを書いてね、みたいなのか、事務局でいきごろを見て思われているところからですか。
事務局	事務局が、3回までの委員会でのご意見と事務局との考え方を合わせた形で作成させていただいています。
委員長	非常に努力されていると思って、先ほどからざっと読ましてもらいましたが、よくまとまっていると思っていますが。まず、ガラスと自転車を見ていただいて、無理があるのか、無理が無いのか。この辺で検討をしてはと思います。評価は後ですとして。
委員	ガラスの工房に関しては、既に行われており、その評価についてはどうですか。参加された方の評価では、ただ単に良かったのか、それともごみ減量に結び付いたことになっているのか、そんなところはのでしょうか。このガラス工房では市民参加はあまりなく、一部市民の方が工房でガラス作品を作られているだけなのか、あるいは参加したためにごみを減らしたとか。こちらではどんな評価になっているのでしょうか。
事務局	ガラスにつきましては、捨てられるとすぐにフェニックスに行ってしまうと言う様なことに関して、ガラスリサイクルは古い瓶を使っておられるので、ごみ減量には繋がっているが、ただ、市民参加の観点から言いますと、なかなか技術的な物もございまして新しい市民参加は見込めていないと思います。
委員	白い瓶、青い瓶、茶色瓶を分別して、それぞれ再利用するとか、どうしても再利用できない物だけを捨てるということで、基本的には分別については、それぞれの市や行政の要望や方針があります。収集してきたガラスは、きっちり処理をして行くことは再利用に繋がっていると思いますが、ガラス工房でガラスがこんな物になりますよというだけであるならば、それが分別に繋がっていく様な効果になるということに少し疑問があります。それがごみ減量に少し直結しているとも言えるのか。反面、直結していないとの意見もありますので、私自身は少し疑問に思っております。古いガラス瓶を色加工している物はなかなか分別できないし、分別、再利用に繋がるかどうか？それは分かりません。このごみ減量に直結しているとの書き方は非常に不適切と私自身が思っています。
委員長	そう言った意味で、ごみ減量に直結しているかどうか、直結していないかどうか。その辺があると思います。取りあえず、ガラスはそう言った意見がありました。他になにかございますか。

委員	ガラスと自転車と家具ですね。
委員長	取りあえず、ここでしかできないものから優先したいと思います。
委員	自転車とか家具は、開所当時市民参加は結構ありましたがその場ではなかなか出来上がりませんので、保管場所も色々ありまして、だんだんできなくなりました。
委員長	自転車と家具とかは、倉庫みたいな所を使っているのですね。
委員	借りていたのですが、市民が少しずつ組み立てた物を次回来るまで保管しないといけけないので、場所が要りますので難しくなり参加が減ってきました。親子のコミュニケーションは物凄くありました。ご自分で子供さんと親子で組み立てて、今でも大切に乘っているのはあります。家具も同様にあります。
委員長	今、こう言う事でまとめているごみ減量から家庭実行までについては特にここがおかしいでと言う箇所はないと思うのでよろしいですか。事務局の意見と委員会の意見を反映させてまとめていると思います。
委員	保管場所が問題だというのですね。今はもうやっていないですか。
委員	はい、残念ながらここ何年間かはしていません、修理・販売の方だけに。
委員長	これは又、例えば家具を直すとか、ボランティアの方を確保できそうですか。
委員	現状はNPOではちょっと難しいです。高齢化していますので。
委員	この環境学習に書いてあることは今のことではないということですね。こう言うことができる可能性があると言うこと事ですね。
委員	以前はやっていました。
委員	今はしていないが、もう一回したらどうでしょう。
委員	できます。
委員	と言うのは、指導者が必要な訳ですね。改めて募集したら、ボランティアで活動してくれる方もいるのですね。
委員	そうですね。講習会も何度か行なっていたので、子供さん向けに環境学習も行っていたので、子供会でも「役に立った」「良かった」と喜ばれました。
委員	こう言う物を大切にするということはごみ減量化に直結していることでありますので、指導者さえ確保できて、改めて力を入れようとしたらできると思います。これからは高齢化社会が進んでいるので、ボランティアの方面でかなり活発化すると思います。元々、そういう専門分野の方を引っ張り出すことが門真市にとっては大事なことです。こう言う得意な専門分野の人は門真市では数パーセント程度はおられると思います。ボランティア活動をどう評価するのか、結構の方が参加されるのではないのかと思います。

委員	以前に会社勤めして退職された後、ボランティアをしてもいいよという方はおられますが、それには「なんぼくれるねん」になってくるので、そういう面ではボランティアではできないです。
委員	ある程度、あめ物が必ずいるので資金的にそれは少し運営の面で考えないといけな いでしょうね。でもある程度のお金を持てくるとなかなか資金的に限定されることがありますね。
委員	その点ですが、ボランティアでと言う形で最初志高く目指してスタートした。やはり、純粹のボランティアと言うことになりますと長続きしないと言う様なことがあります。前日、市長と話をした中で、公民協働を考えていくなかで、色々お話されていましたが、一つの方向性としてはそこに地域通貨と言う物を考えております。市が発行できる物でなく、NPO法人に限定される形になりますが、そういう仕組み作りで近いうちにできれば、そこに幾らのお札としての地域通貨を市内に流通する様な仕組みとして出来上がって行けば続けていけるのではないかと思います。
委員長	地域通貨の話については、市長と我々と対話をした時にもその辺は、具体化していないので、はっきりとは言えないが思いはあると言われておりましたね。ボランティアの指導者の確保と保管場所があればできるので、是非続けていけばと言う様なご意見かと思います。
委員	登録制度で実績に応じて、活動の仕方に評価できるシステムをして、あまり評価されないのではボランティアは続かないと思いますが。もう少しその制度についてシステムを検討していかないと発展がなく、続かないという様に思います。
委員	一つちょっと、披露させていただきたいです。市役所に東側に公益活動支援センターがございますが、そこは指定管理者としてのNPO法人が管理しております。最近、あそこを通られた方は分かるかと思いますが、今まで茶色のスチール製のフェンスを明るいグリーンに塗り替えましたが、実際に現役の方が退職され、何か仕事がないかと相談を持ちかけられて、NPOとお話をされて、そう言った技術者とのやりとりされた形でしていただきました。そういう様な人材を把握すればあるのではかと思しますので、登録制度の仕組みをうまく作っていけば、ボランティアの活動が増えてくるのではないかと言う様に思います。
委員長	色々な関係はありますが、例えば市民参加、公民協働ではないかと言う様なご意見があつて、例えば自転車は変な言い方しますが、捨ててある物を拾ってくる訳ですが、自転車を修理して公共が補助した形で民営を圧迫するなどの様なことは言われ ないですね。他の11工房でも儲かりそうな工房は基本的にはないですね。
委員	儲かりそうならば企業がやっています。
委員	自転車はある程度何かあるのではないですか。
委員	自転車と家具が実際にうまくやれば、利益に繋がります。多少の財源にはなります。
委員長	先ほど言われた様な指定管理者制度にしていくのか。いや、それはちょっと違うやり方もあると。基本的にはここでやっても構わない、公共の事業で市民にごみ減量に繋がるような活動にしても、多分自転車屋さんからも文句は来ないと思ってもよ

	ろしい。家具屋さんは多分修理はあまりないですね。他の陶芸とかは先ず文句は出てないと認識してよろしいですね。
委員	ここでやる分ならいい、駅前でやるならちょっと拙いかもしれない。
委員長	公共が金を払ってボランティアの形で出してどうするのかと思いますが。ないとして、この市民参加も公民協働で後もでてくる様な、先ほどの指導者の確保とか、今後の公共はこうした格好でやって行きたい所存である様な話であれば繋がるのか、ある程度市民だけに全部やってくれというのはなかなか難しい。公共がそうした方向に誘導していくことかと思いますが。それは公共に任せたらいいかと思いますが。
委員	先ほどの地域通貨の話ですが、多分自転車について修理を皆に教えてあげたいと言う話は別に地域通貨が欲しいからやるにはならないので、自分の技術を喜んでくれる人がいることが嬉しいから活動をされないと、地域通貨が欲しいからやるのではないと思います。
委員長	参加していただいた方には地域通貨を出す。参加は自由にさせていただくのは有難いことだと思います。自転車・家具については、今日は終わって、最終的の評価は又次回にしていきたいと思います。ガラスについては、ごみ減量に直結している評価が見えないとの意見がありましたが、その他のご意見とか、まとめはありますか。
委員	今の三つ以外で言っているいいですか。
委員長	今は三つの中で検討しているので。自転車と家具はこのままで良いが、保管場所とか人材の助成とか公としての役割を支援していこうと言うことですね。ガラスはごみ減量に直結していると言うのは、宮田委員のご意見は怪しいかもしれないとのご意見ですね。他にはご意見はないですか。
委員	家具の環境学習ですが、物が大きいから環境学習ができないと言う表現はどうなんですかね。
委員	環境学習では、家具として修理しても使えない横板部分を使って子供の工作などはできますので、そういったことだと使えます。ただ、物が大きいからの考えを変えればできます。
委員長	ガラスについてはごみ減量に直結しているかどうかは、最後にもう一度議論をしたいと思います。他でも行われている紙すき・染めと陶芸とリフォーム・エコッキングについて、ちょっとでも他の門真市内で行っているのと、ここで何故必要かと意味でご意見をいただけますでしょうか。
委員	古紙利用は、紙すきにだけ限らず、古紙を使ってかごを作ったり、いろんな再利用がされていますが紙すきが一番やりやすいですかね。
委員	ここの内容では牛乳パックと書いてありますが、新聞紙とかチラシとかでもできます。又違う物を作ったりもできます。一番喜ばれるのは牛乳パックで作られたハガキですね。それからそのハガキを使って年賀状の講習会を開くなどもあります。
委員長	この紙すきは他でどこで行われているのですか。公民館の関係ですか。

委員	公民館でも、先ほど話があった消費生活研究会がされています。学校でも出前講座もさせていただいています。
委員	それは勿論先ほど話した廃棄物の紙を利用しているのですか。
委員	牛乳パックを主に利用しています。
委員	牛乳パックだけがこの様にハガキに最適でしょうね。確かにこういった繊維で物を作るのは大変ですが、繊維の物を簡単にリサイクルの物を作れるのは非常に教育的には、トータル的に良いですね。
委員	本来はこういったリサイクルの物を作るよりも、牛乳パック自体をそのまま出していただいた方が良いでしょうね。
委員	ただ、資源に出す人とそのままごみの方へ出してしまう人がいます。新聞紙と包装紙も普通のごみと一緒に出しています。紙は紙で分けてもらえれば良いですが。紙は紙で有効に使って行く、牛乳パックも啓発になればいいかなと思います。
委員	チラシでもできますし、新聞でもできます。使い方を工夫して考えればね。
委員長	公民館でやっても、ごみ減量に直結しているかどうか。
委員	紙すきをやっていても、ごみ減量に直結している。分別していれば資源化ができる。こうした部分で評価をしても上がりますよね。
委員	見学者が来て、それを指導してくれる人がいると言ううまい具合の仕組みが、恐らくすでにでき上がっているのですね。
委員	依頼があれば。
委員長	見学者が体験してみたいと思ったときに申し込めばできるということですね。
委員	現状としてはあまりないですね。
委員	ないですね。開けていない状態です。市民参加を呼び掛けても、参加者はほとんどゼロに近いです。団体や学校とかの申込がない限りゼロに近いです。ハガキを一度作ったらそのまま終わっちゃったとか。
委員	そのハガキだけではなくて、色々なものを作れる人材がいるのですね。例えば新聞紙で紙すきをしても、少しずつ色を付ける、あるいはまた違う物を作ることもできます。別の物に加工する得意な人がいて、古い紙を違う物に作り直す。そうした新たな市民参加を定期的にすれば変わって行きますね。それが市との市民協働に繋がるのですね。
委員	人材が確保出来れば、すごく良いと思います。又、違った形で参加者が増えると思います。
委員長	公民館でやられている人はここからやった人ではないのですか。

委員	同じ人物です。
委員	ある意味は自転車・家具と同じ様に、市としては人材の確保のための登録制度を作るなどしないとなかなかできないですね。牛乳パックだけではなく、もう少し色々な何かがあれば良いですね。
委員	新聞紙や手提げ紙袋を商品化し、販売して全国からも海外からも売れ行きの人気商品があったりするのですね。高知の新聞ですが。そこまで行けばリサイクルも広がります。
委員	酒を買うのに新聞紙で包んで、この新聞紙のカラーは結構流行っていますね。それをもう少し違う様な使い方も面白いですね。
委員長	そのあたりは、備考の方で記入していただいてはと思います。
委員	それをする人が問題になります。発想をもってこれをすれば楽しいとか、こう言うものを皆ですれば良いとか、その様なことができる人材がいらない限りは無理です。
委員	ここに書かれている様に最終的には要らなくなったらごみです。それを言われてしまえば何をしても一緒ですよ。
委員	ただ、もう一回を使うかどうかです。家具の修理をして、それが5年使うところが10年を使うか、その期間がごみ排出の抑制になっているので結果的にはごみになるけども、それが抑制でごみ減量に繋がるのです。
委員	3Rの啓発になるのですね。
委員	最終的にごみにならない物はないですが、捨てる前にもう一度有効に使うことにより3Rの啓発に繋がるのです。
委員長	陶芸は直結していないと言うことですが、多量の熱エネルギーを消費するとか、この辺ではどうですか。
委員	陶芸も奈良の生駒市で3R絡みで市民団体がリデュースのために行なっていますが、売れ残り品を愛知県で陶芸品を作っておられるところに引き取ってもらっている。そう言う活動をされているグループがあります。ごみ減量普及活動がされているので、それも一つのやり方ですね。
委員長	だから、今の工房であればどうか。この評価では新しい粘土を使うとかでどうかと言うことになりますね。
委員	以前は、割れた茶碗とかを粉にして、買った新粘土と一緒に混ぜ合せて使っていたのですが、色々な問題があってそれが今、できていないのが正直なところです。
委員長	ここに書いてあるまとめの評価項目では現在是这样な表言してよろしいですかね。よほど現在とはかけ離れていない限り、新たな視点でこのようにしたらできるじゃないかという様な話があるか、どうかですね。

委員	それをしない限り今のままでは、ちょっと無理ですね。
委員長	最終的にはここに書いてある項目にあまり異論はないので、これをどうするのかは、ちょっと考えていきたいと思います。リフォームはどうか。
委員	家庭実行は難しいと書いていますが、これはできます。
委員長	可能性高い。
委員	これもそうじゃなしに、指導者次第ですよ。
委員	若い世代では結構流行してきていますね。
委員	何かこう言う所で貼り付けて、そのままの部分を使うとかですね。
委員	例えばユニクロで買って来た服をそのまま着るのでなく、何をリフォームして着るとか、色々貼り合わせたりしていますよ。
委員	そういう流行は、あまり分かりませんが。
委員	リフォームは、一番人気がありますね。
委員	そうですか。でもごみの排出に繋がるのではないですか。
委員	着物はお婆ちゃんが亡くなった時に要らないからそのまま捨てられますが、それをもらってきて何かを作っています。言われて見れば一定の期間経がたてば後はごみになります。また、端切れを使って小物作りなどはしています。でも最終的に切り刻んだごみは沢山です。
委員	でも、新しい物じゃないですね。又、違う形で直しているのですね。
委員	家庭でそれも簡単にできます。
委員長	先ほどの陶芸も公民館でしているのですか。
委員	陶芸は二島公民館で行われています。
委員長	それは別にリサイクルとの関係でしているのですか。
委員	関係ないです。サークル活動でされています。
委員長	リフォームはどうか。
委員	リフォームも同じです。
委員長	これも同じ着らなくなった服をリフォームされるのですね。
委員	それも同じです。それもリフォームです。

委員長	ここでされている方と同じ人物ですか。
委員	同じ方もいらっしゃるし、別の人もありますのですべて同じではないです。
委員	リフォームと言う形じゃなく、ただ服を部分的に貼り付けるのか、新しいデザインですか。古い端切れを新しい物に作り直すのはリフォームじゃなくて、リユースですね。
委員	リデュースです。
委員	リフォームと言ったら、意味合いからは作り直すことですね。
委員	ここでしているのは着物から洋服に作り直す様なことをしています。
委員	これは出た端切れはそのまま捨てられるのですか。
委員	それはそう言うことになります。
委員長	エコクッキングはどうですか。他でもできますか。
委員	他もできます。数ヶ所ですしています。ここで募集を掛けてもなかなか人は来てくれません。
委員長	場所が悪いのですか。それとも公民館が近いのですか。
委員	ここは設備が悪いです。一番後に出来たのに設備が悪いです。
委員	ここ以外にもできる場所はたくさんあるのですね。
委員	そうですね。文化会館と公民館と南部市民センターの3ヶ所があります。それぞれの設備が充実してありますので、参加者はそちらでされています。そこはサークルです。常駐してされています。この施設は「エコ」と言う名が付いてきますので、メニュー的にも必ず「エコ」が必要になりますので、なかなか難しいです。
委員	リフォームの話をお聞きして、ちょっと思ったのはなぜ趣味と言われるのか、そうじゃないとか、社会全体のシステムに繋がっているかというのは、リフォームはリフォームでいいと思いますが、端切れなどをもっとリフォームに仕切れていない、布・繊維を集めてきて、それをここから実際に使って、燃料として使うとかウエスとして使うのかのリサイクルを普及させるためにリフォームをしながら、そのメンバーの人達は認識し、啓発することが重要だと思います。周りの人や学校に行って出前講座でそれらについて、説明をして繊維とかを実際的にどうリサイクルになっていくと言うところまでしてくれると良いかなと思います。ただのリフォームじゃないもっと環境に良い繊維との付き合いまでを広げて啓発をしていただけたら、多分趣味的とかは言われなくて、良いかと思います。
委員	リフォームした後の残った布切れはウエスまでは無理です。

委員	だからリフォームだけの布じゃなくて、もっと布をこう言う風にここに集めましょ うとかね。リフォーム以上の活動をしていただくと良いですね。
委員	だから、そう言うことになってきますよね。そう言うことを凄く好きな人が、これ から年寄りが多くなってくるので、ここはここで定期的に活動をするいいですね。 年寄りになってくると何もすることないということよりは、お金にならないが、ボ ランティアの人材として確保できれば、この活動がごみの減量化に直結しているも のになる気がします。 市民が参加することによって、ここの施設から指導者の人材確保も必要になると思 います。そう言う意味で、自転車・家具の人材確保制度を設けて、その後、行政が その人材を活用して、先ほど言われたリフォームも行うことができます。また、昔 の着物で非常に良い生地があり、それを新しい服に貼ったものが流行していると言 うような話、パッチワークですかね。それ以外にも鞆に貼る様なこともあります。 これは、リフォームよりもう少し別の名称になるとおもいますが。それを合わせて 有効な工房にすればもう少しより有意的な環境教育になると思います。
委員	今は、着物を利用してワークショップをして、高齢者の方を対象に行ったり、子供 を対象にしたり、そう言った講座も開催しております。物の大切さを教えて、こう すれば物も活用できることを教えています。
委員長	もう時間的に申し訳ないですが、今日配っていただいた資料を又検討していきたい と思いますが、最後に残っている石けん、染め、裂き織り、園芸。例えば染めは直 結していないと書いてあります。この辺について、ちょっと簡単に言っていたい て、次回、評価をしていきたいと思います。
委員	染めですが、ごみ減量に直結していないと言うのも疑問に思います。新しい物を使 っているとここに書かれていますけどそうでもないです。ほとんどはご自分で材料を 持参になっておりますので、色々なTシャツ等を持って来られますので、それを違う 色に染め直したりしています。ごみ減量に直結していないというのはおかしいと思 います。
委員	染めとリフォームと言うのは、染めを掛けてリフォームする様なことをしているの ですか。
委員	それはあります。着物にシミがあつたりすると染めてからリフォームで利用するこ ともあります。スカーフにリフォームしたり、勿論、それはずっと使っております。 どうしても参加者で材料がない場合に限り新しい物を販売していることはありま す。しかし、ほとんどの方は材料持参です。
委員	そう言う意味ではリフォームと染めは非常に関係あるのですね。パッチワークも関 係が有る訳ですね、その中のこととして染めがある。
委員	はっきり言えばそうです。布は全部関連があります。
委員	それは繊維布との付き合い方を学ぶと言うことですね。長く使うということ、もう 一回使うということ、リデュースもあるし、その次はリサイクルと言う全体でこう なっているから皆でやろうよとか、布を集めてこう言う様になっていますよとか、 なんかそう言うのを参加させていただいている方に、学んでいただいて、発信して

	いこうということが有効なことだと強く思います。
委員長	最後に園芸で言うのはあるのですが、これは又、今までとの視点が違いますが、何かコメントはありますか。詳細は次回にしたいと思いますが、これこそ、まち作りに近いですね。リサイクルで言うと堆肥化ですね。
委員	最初はそうでしたが、クッキングから出た物を堆肥にして行くと言うことでした。今もありますが、今、ここに書かれているのは、園芸のお医者さんみたいなことです。
委員長	色々はあると思います。こう言う格好で終わりたいと思います。次に2枚目です。これは11工房以外で、工房の内容が若干入っているとは思いますが、例えば環境学習の出前講座にエコクッキングと書いてあります、この辺を具体化して、更に新たなことを起こせるかどうか、次回に議論したいと思います。従って今回の議論と次回はここの二つを、次回までに少し整理していただいて評価したいと思います。できれば、この最後の工房の評価、点数よりも議論しながら進めた方がいいかもしれませんので、ちょっと当初に事務局にもう少し方向性を介して次回進めていきたいと思います。中途半端な終わり方で申し訳ございませんが、色々議論していただいて、今日の所では方向性が若干見えてきた様な気がしています。今日に終わるかと思っていましたが、若干難しいので、今後のスケジュールを調整したいと思います。 (第5回の日程調整) 本日は、これで終了します。